

南知多町公共施設再配置計画(案) 昨年度からの主な変更点について

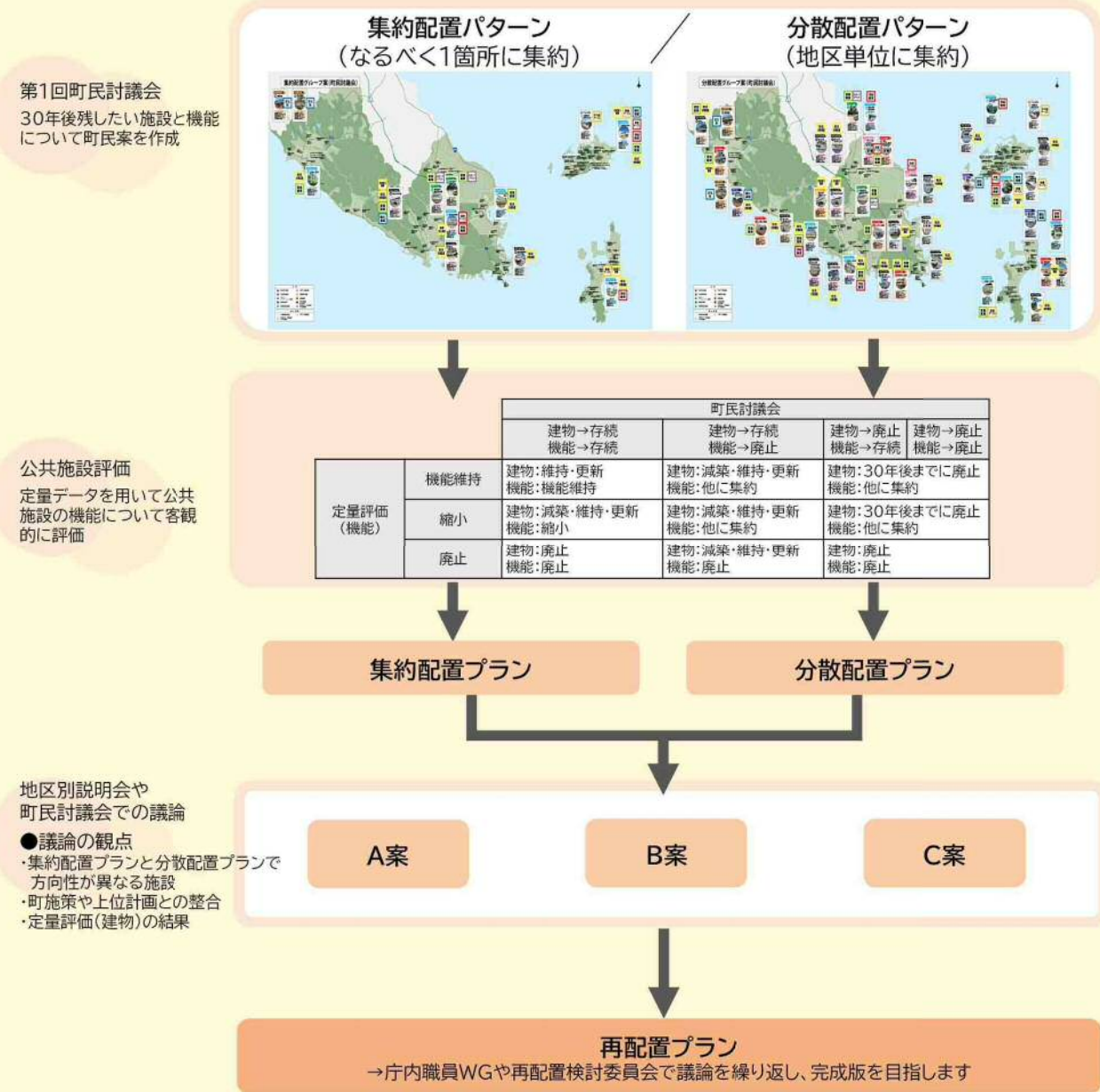
1 昨年度の検討経緯

昨年度は、町民討議会で実施した再配置シミュレーションゲームの結果に対し、事務局で行った公共施設評価の結果を反映させ、集約配置プラン、分散配置プランを作成しました。

集約配置プランと分散配置プランについて、実際の公共施設の利用実態や、町の施策、上位計画との整合といった観点を中心に職員で議論を繰り返しながら、再配置プランを作成しました。

また、役場がR10年に耐用年数を迎えることから、役場の建替えをベースに、建替場所が異なる3案(A案、B案、C案)を作成しました。

【再配置プラン検討の流れ】



2 第2回再配置検討委員会での意見

今年3月に実施した第2回再配置検討委員会において、委員の皆さまから以下のようなご意見をいただきました。

(意見抜粋)

●建物評価について

「重み付け係数を変化させると、結果も大きく変わる可能性がある。この係数が本当に合っているのか、信頼性はどうか。」

●プランについて

「どのような考え方で集約や複合といった方針が決まったのか記載してほしい。残った施設についても、どのような活用を想定しているのか具体的に記載してほしい。機能や施設分類別にまとめると分かりやすくなるのではないかと。」

●見せ方について

「各施設の方向性の考え方が分かるよう、今ある施設の現況がパッと見て分かるような資料があるとよい。」

これらの意見を踏まえ、今年度改めて再配置の考え方を精査し、プランを1案に絞りました。プラン1案を作成するにあたり、昨年度と大きく変更した点は以下3点となります。

3 昨年度からの大きな変更点

- ① 役場は R10 年に耐用年数を迎えますが、再配置計画においては、公共施設等総合管理計画に定められた「公共施設等の管理に関する基本方針」に基づき、長寿命化を適切に実施することで、目標耐用年数である R30 年まで現位置のまま維持することとします。R30 年の目標耐用年数到来後は、町民討議会で検討した理想の役場のあり方を参考に、複合施設化を検討していくこととします。
- ② 建物評価は、指標に重み付け係数を設定して点数化（順位付け）するのではなく、フローを作成し、フローに沿って 30 年後に残す建物を抽出しました。
機能評価は、用いる指標は変更ありませんが、「維持」「縮小」「廃止」ではなく、「維持」「廃止」の判定のみとし、30 年後に残す機能を抽出しました。また、各地区のコミュニティがきちんと確保されるよう、町全体に1つ必要な機能と、各地区に1つ以上必要な機能を定めました。
- ③ 建物評価と機能評価で抽出した 30 年後に残す建物と機能について、現状のまま維持するのか、どこに集約や複合を行うのか等、再配置の方向性を決定するため、施設分類別に再配置方針を作成し、それに基づいて各施設の方針を決定しました。